

鳥羽市地域課題解決調査研究事業 調査研究報告書

| | |
|-------|--|
| 団体名 | 三重大学教育学部家庭経営研究室 |
| 調査研究名 | 離島・僻地教育における地域住民の教育ニーズに関する研究：鳥羽市答志島での調査を通じて |

1 調査研究の実施概要

| | |
|--------|---|
| 実施内容 | 鳥羽市の課題解決のために、以下の調査研究を実施しました。 |
| | <ul style="list-style-type: none">☝ 鳥羽市答志島にて、フィールドワーク及びインタビュー調査を行う。☝ フィールドワーク及びインタビュー調査で得られたデータを整理・分析し、地域住民の教育ニーズについて明らかにする。 |
| 調査研究期間 | 令和7年10月19日(日)～令和7年10月20日(月) |

2 事業実施の成果

| | |
|---------------------|---|
| 調査研究により 明確になった課題 | 本調査研究により、離島における子どもの育ちと学校教育が、地域社会の維持や文化継承と深く結びついていることが明らかになった。一方で、島民が子どもに期待する将来像には、「島に残ること」への願いと、島外も含め主体的に生きることへの期待が併存しており、その構造をより精緻に捉える必要がある。また、保護者と地域住民の教育観・学校観の差異、学校に託される役割の広がりや教員負担、地域文化や産業を教育実践 |
|---------------------|---|

| | |
|---------------------|--|
| | <p>にどう位置づけるかも今後の課題である。</p> |
| <p>課題解決の 提言</p> | <p>課題解決のためには、以下のような取組が必要とされます。</p> |
| | <p>課題解決に向けては、第一に、島民が子どもに託す願いや将来像を、保護者・地域住民・教員それぞれの立場から継続的に対話し、共有する場を設けることが重要である。第二に、地域文化や産業、行事を教育資源として学校教育に位置づける際には、教員個人の負担に依存せず、地域住民や関係機関と協働する体制を整える必要がある。第三に、子どもが「島に残るか否か」ではなく、島で育った経験を基盤に主体的に生きられる力を育む教育目標を明確にすることが求められる。これにより、地域の持続と子どもの自己実現を両立する教育実践が可能になる。</p> |